

社員の子どもがお
仕事体験をする家
族参観日を実施し
ている



人の生き方と共に 組織や働き方もシフトし いい仕事を続けていく

株式会社 計画情報研究所

女性活躍のキモは 仕組みと風土づくり

国や地方公共団体などから委託を受け、交通計画や各種まちづくりの政策形成、調査・分析、プランニング、事業化支援を行う計画情報研究所。コアコンピタンスである分析力、企画力、事業化力を生かし、産業、観光、福祉といった多分野で事業を展開する。建設コンサルタントではあるが、調査・分析や政策提言に特化しているという業務分野特性もあり、多くの女性が活躍。社員の男女比はほぼ半々であり、管理職における女性比率は44%。さらに月平均残業時間26.8時間、有給消化率76.3%といずれも業界の平均をはるかに上回り、令和3年には石川県内で8社目、「専門・技術サービス業」では県内初となる「えるぼし認定企業(3段階目)」に認定された。

当然ながらこの環境は、一朝一夕にできたものではない。同社は15年以上、柔軟な働き方への取り組みを続けており、その経験から「女性活躍推進の要は、おのずと活躍したくなる仕組みと風土をどうつくるか」だと断言する。月間フレックス制や1時間単位で取得可能な有給休暇制度などは、社員の声を聞いて見直しを図り定着させた仕組みだ。また、夏休みに1日会社を開放し、互いの家族や子どもとも交流

を図る家族参加日を設け、社員同士助け合う風土を醸成してきたという。

3年前からはクラウド化を柱とした社内インフラを整備。どこでも仕事ができる環境、ペーパーレスに加え、teamsを活用したチャットでのコミュニケーションを推進。オープンな議論の中から自発的な提案ができる組織へとシフトした。コロナ禍でのリモートワークへの移行も問題なくできたことは言うまでもない。

「自由と責任」のもと 自分にあった働き方を選ぶ

女性の活躍推進にも深く関わる多様な働き方を叶えるうえで、成果や売上げをきちんと見込める体制であるかも重要となる。同社には、短時間勤務の管理職や週3日勤務で副業を持つ社員など実にさまざまなワークスタイルと共に、「自由と責任」という考え方と仕組みがある。業務ごとの作業時間や個人の出来高も完全見える化されているため、社員は自分やチームの仕事に責任を持って今すべきことを考えて動く。担当したい仕事は社員の挙手制だ。また、能力、業績、会社への貢献という基準を明確にし、給与体系にバリエーションを持たせることで多様な働き方を後押ししている。

昨年末、半年かけて準備を進めたフリーアドレスを社内一斉に導入した。

変化への経験値が高い同社であっても、新しいことに戸惑う社員はいたというが、力で押し進めるのではなく反対意見をすべて出し、一つ一つ解決していった。「良くなるはずなのにならない。そんな時は、意見を言えないまま反対している人がいることを想定します。環境を変えると一度は意図しない状況に陥りますが、強い信念でぐり抜ければ好転します。強い信念というのは、例えお金や時間、手間がかかってもやるんだと本当に思うことです」。

コロナ禍を経験した社会は今後ますます変化のスピードを上げ、企業の存在や手がける事業に関する意義がシビアに問われるようになると同社は読む。だからこそ、多様な選択肢や業務効率化は、余裕を生み出しいい仕事をするための絶対条件であり、進化の取り組みに終わりはないと考えている。



安江社長(左)と若林総務部長(右)。共に子育て真っ最中のママでもある

DATA

■所在地/金沢市駅西本町 2-10-6 ■代表者/代表取締役 社長 安江 雪菜 ■設立/1987年 ■従業員数/25名(男性:11名/女性:14名)
■事業内容/交通計画や各種まちづくりのプランニング、事業支援。民間企業、NPO、各種団体と連携したプロジェクト支援。
店舗や一般社団法人の運営などの自主・協働事業。